



# 砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

## ロタウイルス胃腸炎にご注意を!!

市立砺波総合病院小児科医師 正司 政尚

冬のシーズンです。小児科でこの時期に流行するものとして「ロタウイルス胃腸炎」があります。その名の通りロタウイルスに感染することにより発症する胃腸炎で、吐き気・嘔吐・下痢・発熱が見られ、脱水症状を引き起こします。子どもは少し水分補給が出来ないとすぐに脱水症になってしまいます。特に2歳未満の乳幼児では著しい脱水により全身がぐったり、吐いて下痢しておっぱいも飲めない、という状態になりかねません。

そうなる入院して点滴から水分と糖分、糖分を補給してあげる必要があります。入院期間は数日程度のことが多いですが、その間子どもが付き添いで仕事を休んで…となると経済的損失もかなりのものです。ここではロタウイルス胃腸炎について、特徴と対策・治療、またワクチンについても少しお話しします。



### 特徴

ロタウイルスは非常にわずかなウイルス量、10〜100個の粒子でも感染し、5歳までにはほぼ全員の子どもの感染します。一説によると一人の患者さんから100人以上に伝染することも言われています。症状は時に非常に激しい下痢・嘔吐となり、脱水症状により世界では年間約50万人以上の子どもの命が亡くなっています。また稀なケースですが、胃腸炎関連けいれんという良性のけいれん、あるいはロタウイルス脳症という予後の悪い病気を引き起こす危険もあります。

### 対策・治療

まずは兎にも角にも手洗いです。トイレのドアノブ、水道の蛇口などを介した感染にも注意です。感染した子どもの便には大量にウイルスが含まれていますので、便は厳重に処理しましょう。もちろん、処理後は丁寧に手洗いしてください。汚染された衣類は次亜塩素酸で消毒するとよいでしょう。(家庭では塩素系漂白剤をうすめて30分浸しましょう) 次にロタウイルス胃腸炎になった場合の対策です。軽症であれば少量の水分を頻回に補給しましょう。りんごジュースや経口補水液など、糖分、糖分を含んだものがよいでしょう。一度に飲ませると一気に吐いてしまうことがあるので、欲しがっても少しずつ飲ませるのがコツです。一度吐いたら30分程度は休んで、また飲ませましょう。

重症の場合は入院管理が必要となります。基本は輸液療法で、下痢・嘔吐が治まり、経口摂取が出来るようになれば退院となります。

### ワクチンについて

現在、ロタウイルス感染症に対して予防ワクチンが開発されており、生後2か月から接種出来るようになりました。とはいっても経口ワクチンですので赤ちゃんの負担はそれほど大きくはありません。少し甘いシロップを飲んでもらうだけです。ただし公費では保証されており、自費で約3万円という費用を払う必要があります。それでもロタウイルスに感染して入院となるよりは結果的には経済的だと考えられるため、ワクチン接種は積極的に勧められています。

ロタワクチンは非常に効果が高く、接種すると90%以上の確率で予防効果があると言われています。また予防接種は周囲が受けることで流行が抑えられるという間接的な恩恵もあるのです。接種率を高めることも重要です。当院では毎週火・木曜日の午後には予防接種外来があります。当院のロタワクチンは2回接種ワクチンで、生後24週まで受けられます。ぜひ接種していただければと思います。一度かかりつけ医に相談されてみてはいかがでしょうか。

